

学部長インタビュー

看護学部の魅力って何？

日本赤十字看護大学 看護学部長 武井麻子



(たけい あさこ)1949年東京都生まれ。東京大学医学部保健学科卒業、同大学院博士課程保健学専攻修了。博士(保健学)。千葉県にある民間精神科病院、海上療養所で看護師、ソーシャルワーカーとして勤務後、千葉県立衛生短期大学助教授。日本赤十字看護大学教授となり、2010年より日本赤十字看護大学看護学部長。看護師のほか、保健師、保育士の資格を持つ。専門は精神保健看護学で、「ひと相手の仕事はなぜ疲れるのか」(大和書房)「グループ」という方法」(医学書院)「感情と看護」(医学書院)などの著書がある。

インタビュー・文/古矢明雄(本誌)

学部長インタビュー 看護学部の魅力って何？

自分と向き合い、患者さんに関わる中で 体だけでなく心もケアして行く看護を 実習教育、様々な国際プログラムで実践

赤十字とは何？ 赤十字看護大学とは？

今回の東日本大震災は、かつて日本が体験したことのない甚大な被害をもたらし、その被害は、1か月を経った今でも、全貌がつかみきれないほどです。この間、日本中、世界中の人が被災した人々のために、義援金などの援助の手を差し伸べています。

日本赤十字社は、その義援金の送付先としてしばしばニュースなどに登場しますが、どうし

てそういう役割を果たしているのか、私たちの大学が日本赤十字看護大学と名乗るのはなぜか、そこからお話したいと思います。

日本赤十字社は、世界186カ国にある各国赤十字社のひとつで、戦争や大規模な事故や災害のときに敵味方の区別なく人道的支援を行う国際赤十字(国際赤十字・赤新月運動)のひとつです。各都道府県には支部があり、病院や診療所、血液センター、献血ルーム、福祉施設などを持っています。今回の東日本大震災では、宮城県の石巻赤十字病院に災害対策本部が置かれ、

被災者救護・看護の拠点となりました。

石巻赤十字病院には、本学も3月20日から1週間交代でボランティアの看護教員を1～2名ずつ派遣し、泊まり込みで病棟看護師の支援を行っています。

日本赤十字社は、北海道に10、東北に6、関東甲信越に26、東海・中部・北陸に13、関西に14、中国・四国に14、九州・沖縄に11というふうに日本全国に赤十字病院を置いています。日本赤十字学園という学校法人のもと、関西を除く6つの地域に、看護師養成を目的とする看護大学を設置しています。

私たちの大学を含む6つの日本赤十字看護大学に共通の特色は、今回の大震災の救護活動に見られるように「災害看護学」を展開していること、日本赤十字社の国際活動に協力したり海外大学での研修に参加したりと国際活動が活発なこと、看護の現場で活躍できる高度な専門家の養成を行っていることです。大学のあるそれぞれのプロックの赤十字病院との関係が密接で、臨地実習の機会が豊富なことは言うまでもありません。

心のケアを重視した 看護教育を展開

これら6つの日本赤十字看護大学の中でもっとも早くできたのが、私たちの大学です。大学キャンパスは、高度先進医療などで日本を代表



新入生オリエンテーション

する病院、日本赤十字社医療センターのすぐそば、渋谷区広尾という閑静な住宅街の一角にあります。

今回の大震災では、津波のために多くの人が肉親、財産を目の前で一瞬のうちに失いました。そうした方々が避難所などで次に直面するのが、絶望感や喪失感などの心の問題です。こうした人々のケアを行うのが精神看護で、私たちの大学は、創設以来、この分野の充実を目指してきました。

私たちの大学に入学した学生は1年次から患者さんとどういう関係を築いて行くか、人と接するとき自分にはどんな傾向があるかなど、自分と向き合い、患者さんをどう精神的に支えていくかを学んでいきます。

患者さんの心の看護、精神看護こそ看護の基本、看護とはケアリングであり、人との関わりの中で体だけでなく心もケアして行くのが看護なのだという考えが徹底しているのが、私たちの大学の大きな特色とっていいと思います。

改築され新しくなった 日赤病院で臨地実習

カリキュラムにも大きな特色があります。ひとつは実習教育の充実です。私たちの大学の実習教育は、1年次の「看護援助学実習」に始まります。この実習では、先にも申しましたように、日常生活の援助を通じて、病を持つ方々との関係の築き方を学びます。

2年次では、1年次で学んだ患者さんとの人間関係に基づき、患者さんがより良い健康状態で生活できることを目指して看護計画を立て、看護を実践することを学びます。

3年次では、精神科の病院、乳児院・小児病棟、リハビリテーション病院・高齢者ケア施設、産科外来・分娩室・新生児治療部門などでの専門的な実習を行い、4年次での保健所や保健セ

ンターでの「地域看護学実習」、様々な病院や地域施設での「看護学総合実習」につなげます。

1・2年次の学内実習の舞台となるのは、様々な看護の現場を想定した学内の実習施設。学生はこれらの施設で現場での実践さながらの実習を積み重ねることができます。また3・4年次の臨地実習の舞台である日赤医療センターは2010年に改築、横浜市立みなと赤十字病院は2005年に開設されたばかり、大森赤十字病院も本年改築されます。最新の設備を備えたこうした新しい病院で実習を行えるのも大きなメリットです。

交換留学、海外演習など 多彩な国際交流を実施

学科目にも特色があります。「看護英会話」はグローバルに活躍できる看護者の育成を目指した科目です。看護の専門英語のほか、世界の看護事情も学ぶことができます。また「国際看護学」や「赤十字国際活動論」は私たちの大学ならではの科目で、赤十字や看護活動の国際的な活動について学ぶことができます。

日本には私たちの大学も含め6つの赤十字看護大学がありますが、これは世界でもめずらしく、日本のほかにはスウェーデンとタイにしか赤十字の大学はありません。これらの大学とは交流があり、スウェーデン赤十字大学とは3週間の交換留学を行っています。

派遣されるのは3年次の学生で、先方ではスウェーデン赤十字病院、スウェーデン赤十字老人ホーム、カロリンスカ病院などで実習に参加し、スウェーデンの看護・医療制度などを学んでいます。逆に私たちの大学でもスウェーデン赤十字大学から学生を受け入れています。その一期生が、日本で看護師になることを目指して再来日しています。

こうした交換留学に加え、オーストラリアでは語学研修、カンボジア(今年からバングラデ

ッシュ)、アメリカ、スイスでは、現地の大学や国際機関での研修プログラムなどに参加する「海外演習」を実施しています。

常識にとらわれない 自由な発想と豊かな感性

フィリピンやインドネシアから看護師候補が来日し、日本での看護師資格取得を目指して研修を行い、国家試験にチャレンジするなど、看護の世界は、人手不足を背景に大きく変わろうとしています。

看護師不足は、日本に限らず、欧米などでも共通で起こっています。いつ起きるかわからない患者さんの不調や病気に対応するために、看護師は身を粉にして働いてきたことが、3Kなどと揶揄され、看護師不足をもたらした原因にもなっています。しかし、看護職にはそれを超えた喜びが存在します。病気などの不安を抱えた人に寄り添い力になれたときの充実感は、それまでの苦労を忘れさせてくれます。私たちの大学では、自分を大切にしつつ患者のケアを行う看護師を育てていきたいと思っています。

バイタリティがあり、常識にとらわれない自由な発想ができる人。感性の豊かな人なら、私たちといっしょにきつとやっつけていけます。そして多くの先輩たちがそうしたように、看護という仕事を通して自分の新しい世界をきつと築けるはずですよ。



スウェーデンからの交換留学生との交流